

近年、豊橋市では集住化と散在化が同時進行で進んでいます。散在校でも1校当たりの在籍人数は増加の傾向にあり、新規の編入児童生徒の対応に苦慮している状況が見られます。「みらい西」は、市内南西部の散在地域を主な対象としているため在籍校数が多く、更に多国籍・多言語の傾向も顕著です。

こうした状況から「みらい西」（羽田中学校内）では、今年度から中学生に加え、小学生（2年～6年）の受け入れを開始しました。今回は、一つの教室の中で小学生と中学生と一緒に学ぶ様子を紹介したいと思います。

### ◎「みらい西」通級児童生徒データ

令和5年度9月11日現在の「みらい西」の通級児童生徒のデータです。（多言語化の様子をご覧ください。）

	小学生コース	中学生コース
在籍校	牟呂小、吉田方小、福岡小、磯辺小、栄小	牟呂中、吉田方中、北部中、前芝中
累積通級児童生徒数	8名	6名
児童生徒の出身国	ブラジル、フィリピン、中国、エジプト	ブラジル、フィリピン、パキスタン、ベトナム
児童生徒の母語	ポルトガル語、タガログ語、中国語、アラビア語（英語）	ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、パシュトー語（英語）

### ◎みらい西の学習について

今年度の「みらい西」では、一時期、小2（1名）、小5（3名）、中1（1名）、中2（2名）の計7名が同時に学んでいました。同時期に複数名の児童生徒が通級している場合、指導開始直後の適応指導やサバイバル日本語指導では、次のような工夫をしています。

	生活適応指導	サバイバル日本語
小学校低学年	交通安全や保健室、給食指導など学年に関わらず共通する内容は、同グループで指導。	学校生活に必要な語彙（鉛筆、消しゴムなど）や生活必須表現（お腹が痛いなど）は、場面を示して指導する等、低学年でも理解できる活動を行い、語彙数などで差をつける。
小学校高学年		
中学生		

「日本語基礎」の指導では、学年または日本語レベルによって2～3つのグループに分けて学習しています。特に、日本語の場合、子どもの発達段階を考慮した指導が効果的と言われています。

中学生 小学校高学年	高学年や中学生の児童生徒の場合、文の構造や文法規則を理解することができるようになります。文型指導では目的に応じて、反復練習、代入練習（文の一部を入れ替えて新しい文を作る）、転換練習（否定形、疑問形、過去形に変えるなど、性格の異なる文に転換する）、合成練習（二つの文を合わせて新しい文を作る）、拡大練習（修飾語や新しい語句を加えて文を長くしていく）文章完成練習、応答練習、役割練習など、多様な方法を駆使して、活動が単調にならないように工夫をします。さらに、コミュニケーション能力が身につくように、実際の生活場面に応じた応用練習を取り入れることが大切です。
小学校低学年	低学年は、文の構造や文法についての理解がまだ難しい年齢です。具体的な場面を設定し、その場面に適した言葉や表現を学ぶトピック型の指導方法が有効です。

（「外国人児童生徒教育の手引き」（豊橋市教育委員会）より引用）

このことから、「みらい西」では、中学生と小学校高学年の児童生徒には『みらいの日本語』、小学校低学年の児童には『しょうがくせいのにほんご』と、それぞれの発達段階に合わせたテキストを使用しています。

<p>26. しょうがくせいのにほんご</p> <p>kyōkasho きょうかしよ</p> <p>nōto ノート</p> <p>sanjūno kyōkasho aru sanzūno きょうかしよ ある?</p> <p>sanjūno nōto aru? sanzūno ノート ある?</p> <p>sanjūno kyōkasho nōto sanzūno の きょうかしよ ノート dashite だして、</p> <p>nanjiga suki nani ga suki? ええおが suki えいごが すき、</p>	<p>26. 月曜日の2時間目は数学です。</p> <p>【科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【授業科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【教科】 国語・算数・英語・理科</p>	<p>26. 月曜日の2時間目は数学です。</p> <p>【科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【授業科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【教科】 国語・算数・英語・理科</p>	<p>26. 月曜日の2時間目は数学です。</p> <p>【科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【授業科目】 国語・算数・英語・理科</p> <p>【教科】 国語・算数・英語・理科</p>	<p>時間割</p> <p>1時間目 8:45-9:35</p> <p>2時間目 9:45-10:35</p> <p>3時間目 10:45-11:35</p> <p>1時間目は8時45分から9時35分までです。</p> <p>2時間目は9時45分から10時35分です。</p> <p>3時間目は10時45分から11時35分までです。</p>
--	---	---	---	--

- ・教科名を実際に使う場面を想定した表現を教える。
- ・時間割」というテーマと基本的な文型指導を組み合わせている。
- ・視覚支援(絵)を多用。平仮名にはローマ字を添付。
- ・学習初期段階から生活漢字を使用。母語訳を付けて理解を促す。

また、多言語・多文化の小中学生と一緒に学ぶことで、コミュニケーションの方法を考えたり、お互いを思いやり、お手本にしたりと、多様な関わり方を学ぶ機会にもなっています。

小中学生みんな一緒に！  
Let's study English & Japanese!

教えて先輩！  
わからないところがわかったよ

中学校ってこんな勉強するんだね！  
小中学生合同で在籍校登校の振り返り



始まったばかりの小中合同コースですが、義務教育9か年を見通した指導の知見を蓄積していきたいと思っています。しばらくは試行錯誤もあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

### 中村アナパウラ相談員のブラジル紹介

今回は最近のブラジルの移民事情についてご紹介します。

「移民の国」と言われるブラジルの移民の歴史は、1500年代のポルトガル移民から始まりました。そうした歴史的な移民に加え、最近の様々な社会情勢の影響を受け、新たにブラジルにやってくる人たちも増えています。

学校現場でも、その動きが表れています。ブラジル国内のデータによると、2010年には全国の基礎教育学校で、43,400人の外国人児童生徒が在籍していました。2019年には、130,067人、3倍以上に増加しています。多くはヴェネズエラ、ハイチ、ボリビア、シリア、アフリカ大陸の諸国からの移民家族ですが、最近ではウクライナからの難民の子どもたちもいます。中には、子どもだけでブラジルに入学するケースもあります。そんな中、ブラジル政府や教育関係者は、外国から来る子どもたちを受け入れる対策に努めています。

ブラジルの学校での外国人の子どもを受け入れる際のガイドラインを閲覧すると、ポルトガル語を教えることは勿論ですが、居場所づくりを重視した支援についても書かれています。

サンパウロ州の取り組みの例を一部紹介します。

- チューター・スチューデント制度。同じ言語の滞在歴の長い学生が学校や授業について、新しい学生に教える。
- 外国人学生相談会。ブラジル人学生が外国人学生に学校生活の困りごとや心配事を話して、解決方法を探る。
- 外国人学生の家族の話を聞く会。それぞれの家族が先生方に、今に至るまでの経歴を話す。
- 異文化交流フェスタ。出身国の文化、食べ物、宗教などをブラジル人学生に紹介する。
- 学校の教室を使って大人(保護者)向けのポルトガル語教室を開催する。
- 翻訳付きの教科書の配布。(スペイン語、英語、フランス語、クレオール語)

日本と同様、多様な取り組みをしていることが伺えますね。

